

コンピュータ活用研究部会 / BIM・FM研究部会

ICT活用によるFMの変革

コンピュータ活用研部会 部会長

天神 良久 てんじん よしひさ

 株式会社 ケー・デー・シー 中日本支店長
 認定ファシリティマネジャー


BIM・FM研究部会 部会長

猪里 孝司 いさと こうじ

 大成建設株式会社 設計本部
 まちづくり・建築計画室長
 認定ファシリティマネジャー


コンピュータ活用研究部会とBIM・FM研究部会の委員4名が、昨今話題性のあるICT関連の動向を説明し、その後「ICT活用によるFMの変革」をテーマにしたパネルディスカッションでは、先端の研究を行っている6名のパネラーと、ICT活用によりFMが近未来にどのように変化するかを考察した。

第1部 ICT関連の動向発表

「アクティビティ調査の紹介」では、森本卓雄氏が、オフィス内の生産性を定量測定する一手法が紹介した。「地方公共団体で利用するCAFMシステムの紹介」では、阿部順一氏が、自治体が持っている各種インフラ資産を維持するための生涯コストの簡易算出方法を紹介した。「国政調査データを利用するGISソフトの紹介」で、天神は、無料で操作できる(独)統計センター(総務省統計局)のGISソフトJSTAT MAP(地図による小地域分析)が紹介し、また、BIM部会を代表し、松岡辰郎氏は「BIM・FMをとりまく状況と展望」をテーマに、BIM事例、海外でのFMに言及したBIM書籍、

BIMのロードマップ、FMで活用できるICTの進歩と選択肢の拡大など興味ある話題が提供された。

第2部 パネルディスカッション

猪里の司会進行により行ったパネルディスカッションでは、パネラーから「BIMで設計した建物データをそのままFMで利用できるのか?」という質問が飛び出し、松岡・繁戸両氏が、実践に則って回答した。その後IoTに関する質問が続きディスカッションが大いに盛り上がった。

後半に「データベースとインデックス」に関して話題を投げかけた。BIMからFMにデータを移行しようとした場合、受け手のFMシステムのデータベースが、みな、独自のものであり、そのため、その都度コンバージョンプログラムを作成しなければデータ移行できない。これがBIMからFMにデータ連携しようとした時の最大の障害となっている。また、BIMのソフトウェアがIFCに準拠することにより互換性が維持できるようにするという回答があった。


猪里 孝司
 (大成建設)

松岡 辰郎
 (NTTファシリティーズ)

繁戸 和幸
 (安井建築設計事務所)

阿部 順一
 (オーイーシー)

森本 卓雄
 (アルファ・アソシエイツ)

天神 良久
 (ケー・デー・シー)